

おじいちゃんのみかん

－勤労の尊さ－

- 1 学 年 第8学年〔後期〕
 2 主題名 勤労の尊さ [4－(5)]
 3 ねらい
 ひたすらおいしいみかんを待っている人に届けようというおじいちゃんの働く姿に共感させるを通して、生きがいや喜びのある人生を目指そうとする実践意欲を育てる。
 4 資料名 「おじいちゃんのみかん」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 下蒲刈の特産物を考える。 ○ 下蒲刈の特産物にはどんなものがあるでしょう。 ○ 二つのみかんの違いは何でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひじき ・ みかん ・ 塩 ・ 見かけは悪いけど、無農薬の方がおいしい。	○ 蒲刈の無農薬みかんを提示する等して、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「おじいちゃんのみかん」を読んで話し合う。 ○ 昔のみかん農家はどんなことが大変だったでしょう。 ○ おじいちゃんの作るみかんはどんなことが大変でしょう。 ○ 私が意外に感じたおじいちゃんのことばを考えましょう。 ◎ おじいちゃんのことばを聞いて、私はどんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車がなかったので、人が背負ってみかんを運んでいた。 ・ 家とみかん山を何度も往復しなければならなかった。 ・ 木箱に入っていて重い。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 形が不揃いなので時間をかけて選別しなければならない。 ・ 収入につながらない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わしのみかんを待っている人に安心・安全なみかんを食べてもらいたいんじゃない。 ・ ご先祖からもらった土地は大切に守っていかなければいけない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もうけだけのことを考えているんじゃないんだな。かっこいい。 ・ おじいちゃんのみかん作りに対する思いはすごいなあ。 ・ みかんがおじいちゃんをいきいき元気にさせているのかなあ。 	○ 今と違い昔は、人の力が主であったことに気付かせ、気の遠くなるくらいの労働量であることを想像させる。 ○ おじいちゃんのことばから、「みかんを作る」という労働に対して誇りを持っていることに気付かせたい。
終 末	3 「心のノート」(P.111)に自分の思いを書こう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働くことはお金もうけだけだと思っていたけど、いろいろなことを学ぶことができることを知った。 	○ 素直な心の変化を自分の言葉で書かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

内容項目〔4－(5)〕「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」に基づき設定した。

人はなぜ働くのかという勤労の意義について、瀬戸内海の島々のみかん農家を題材に、先祖代々受け継いだ土地を大切に受け継いでいる人たちの勤労に対する生きがいや喜びに共感させ、主題にせまらせた。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用の時期

呉市では、中学2年生を対象に夏季休業中に職場体験学習「キャリアスタートウィーク」を実施している。本資料は中学校2年生の2学期以降、できれば職場体験学習の直後あたりに活用することで、生徒一人一人の体験に基づいた思考を引き出すことができやすくなると思われる。

イ 資料の中心場面

資料後段の、みかんをつくる理由をおじいちゃんがつぶやく場面で、からだによい無農薬みかんを多くの人に食べてもらいたいという、一途な気持ちを感じ取らせたい。また、もうけはなくても「みかんを生産する」という行為そのものを尊い行為として誇りを持ち、守ろうとしているおじいちゃんの勤労観について考えさせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 体験の活用

おじいちゃんという言葉のところを空欄にして、生徒に予想させるのもよい。生徒は、それぞれ違う場所で職場体験を行い、いろいろな職業感を持つ人々に接している。その体験を振り返らせ、生徒が現実に関した様々な人の勤労観や自分の思いについて、自分の言葉で語らせたい。

イ 導入の工夫

導入では、蒲刈産の無農薬みかんを提示する等して、資料への興味付けを行いたい。また、「これは、私の考えでは、世界一おいしいみかんです。なぜだと思う？」等の問いかけを行い、予想させた後、「これは、ふるさと蒲刈のみかんで、このみかんを作っているあるおじいちゃんを知っているからです。そのおじいちゃんのことを思い出せるから、私は、世界一おいしくこのみかんを食べることができるのです。」等、みかんへの思い入れをしっかりと伝えとよいておく。

ウ 終末の工夫

終末では、教師の説話の中で朝日新聞の「天声人語」でも掲載された「新幹線ガール」（徳淵真利子著 メディアファクトリー）等の本を紹介するのもよい。この本はアルバイト採用から正社員へ、やがて売り上げNo. 1の新幹線パーサーへと歩む女性の生き方にスポットを当てている。ただ働いてお金を稼ぐのではなく、人と人とのコミュニケーションの大切さ、気配り等についても触れられている。また「茶髪は乗務禁止」、「髪を留めるゴムは黒、紺、茶に限る」「口紅の色はピンク、ローズ、レッドのみ可」等々、中学校の校則よりもはるかに厳しい決まりが存在すると言うところでは、生徒にとって驚きであり、勤労の意義について考えさせるよい機会となる。

(東畑中学校 宇都宮富士夫)